

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

施策番号	S23	施策名	補助金、助成金の見直し
担当部課	総務部財政課	関係部課	補助金を所管する全課

基本情報	第6次総合計画・基本目標	7 市民から信頼される市政の運営
	行政改革指針・重点課題	1 経営改革の推進
	法定受託事務の有無	無
	その他（関係計画、要綱等）	有 長久手市補助金等交付規則、各課等が所管する補助金交付要綱
施策開始の背景、経緯等	平成17年に策定した第3次行政改革大綱の集中改革プランの一つとして位置づけ、その後は、予算編成時の査定を通じて適正化に取り組んできたが、受益者負担適正化の一環として適切な見直しを行う仕組みを整備し、一層の推進を図る必要がある。	

施策の目的等	施策の内容	(どのような施策なのか) 適正な支出となっているかを判断できるガイドラインを作成して既存の補助金については適正化を進め、毎年度チェックする仕組みを整えることで、適正な状態を維持できるようにする。
	施策の対象	(誰、何を対象にしているか) 補助金を支出する全ての担当課、各補助金の交付要綱等
	施策の意図	(対象をどのような状態にしたいか) ガイドラインに沿った適切な要綱等に見直し、補助金の公益性、有効性、妥当性、公平性等を担保する。

目標・成果推移等①	施策に係る取組①	ガイドラインの策定									
		R2年度(2020)	R3年度(2021)	R4年度(2022)	中期(おおよそ3年後)	長期(おおよそ5年後)					
		成果・実績	成果・目標	成果・目標	成果・目標	成果・目標					
		団体向け補助金から審議を進め、ガイドライン案を作成して個別に補助金の見直しが可能か検証を進めた。	団体・個人に適用可能なガイドラインを策定し、影響を受ける団体には担当課から説明を行う。	令和5年度予算に間に合うよう全ての補助金について、ガイドラインとの整合を図る。	ガイドラインについて適宜見直しをはかりながら、補助金要綱の適正な運用を継続する。	ガイドラインについて適宜見直しをはかりながら、補助金要綱の適正な運用を継続する。					
		費用・実績(細々節名)(金額)	費用・見込み(細々節名)(金額)	費用・見込み(細々節名)(金額)	費用・見込み(細々節名)(金額)	費用・見込み(細々節名)(金額)					
		18節のうち補助金の一般財源合計	326,265千円	18節のうち補助金の一般財源合計	318,291千円	18節のうち補助金の一般財源合計	302,376千円	18節のうち補助金の一般財源合計	286,462千円	18節のうち補助金の一般財源合計	280,000千円
		市民参加数・実績	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み					
		(延べ) 0人	(延べ) 0人	(延べ) 0人	(延べ) 0人	(延べ) 0人					

目標・成果推移等②	施策に係る取組②	毎年度チェックする仕組みの整備				
		R2年度(2020)	R3年度(2021)	R4年度(2022)	中期(おおよそ3年後)	長期(おおよそ5年後)
		成果・実績	成果・目標	成果・目標	成果・目標	成果・目標
		ガイドラインとセットで運用し、継続的にチェックできるシートの案を作成した。	チェックシートの様式や運用について決定する。	決算時期に各課等にチェックシートの作成を依頼し、補助金の状態を確認できる仕組みの運用を開始する。	補助金の状態をチェックシートで確認する事務を毎年度の定例事務として確立する。	補助金の状態をチェックシートで確認する事務を毎年度の定例事務として確立する。
		費用・実績(細々節名)(金額)	費用・見込み(細々節名)(金額)	費用・見込み(細々節名)(金額)	費用・見込み(細々節名)(金額)	費用・見込み(細々節名)(金額)
		特になし	特になし	特になし	特になし	特になし
		市民参加数・実績	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み
		(延べ) 0人	(延べ) 0人	(延べ) 0人	(延べ) 0人	(延べ) 0人

活動状況	活動エピソード	(活動のエピソード、コメント、特記事項など) まず原理原則を重視したガイドライン案を作成し、既存の補助金の現状に当てはめて細部の調整を行っている。各部から経験に即した幅広い意見が出ており、調整には時間を要している。
------	---------	--

改善状況	改善ポイント	(何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど) これまでは明確なガイドラインがないため、補助金要綱を見直す手段や動機付けが難しかったが、ガイドラインを作成することで、困難であった見直し作業が進むと考えている。
評価	評価・課題	(進捗状況や課題など) 多種多様な補助金があるため、ガイドラインで1つの基準にまとめることが難しく、原案の段階では多くの例外事例が生じているが、例外の多さはガイドラインの形骸化につながることから、ガイドラインの細部までの作り込みが課題と考えている。
費用対効果	施策の意図に係る費用対効果の分析	(施策の意図に係る費用対効果の分析、検討、研究の状況など) 直接の事業費はないが、補助金の見直しが進むことで、一定の費用及び事務の削減が見込まれ、十分な費用対効果があると考えられる。
今後	今後の方向性、改善点	(施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など) ガイドラインを令和3年度中に策定し、基準に沿って各補助金、助成金の見直しを進める。令和5年度にはガイドラインに基づいた補助金等の見直しを完了する。
内部意見	総計画担当、財政担当、行政改革担当	引き続きガイドラインの策定に取り組むとともに、随時の見直しを進めてください。
内部意見への回答		